

今年度の傾向としては、領土問題が影響した中国方面の需要が低下した一方で、日並びの良さや円高が追い風となった欧米線といった長距離線が好調だった。

またLCC3社のうち、国際線に就航就航済みのピーチ・アビエーションの国際線利用率は81.6%。エアアジア・ジャパンは72.2%。ピーク日にはほぼ満席状態になるなど、年末の日本発便、年始の日本着便で高い利用率を残した日がみられた。

JAL 年末年始

国際旅客 4.1%増

日本航空(JAL)グループがまとめた2012年度年末年始(2012年12月21日～2013

ほかにグループ会社の実績については、日本トランスオーストリア(TTA)が提供座席数3.8%増の18万3755席で、旅客数21%増の13万4450人、利用率が10.4ポイント上昇した73.2%で、臨時便は那覇-久米島線を2便、那覇-石垣線を6便、関西-那覇線を4便運航した。

琉球エアコミュニケーションでは提供座席数12.4%増の2万5610席、旅客数24.2%増の1万7313人、利用率6.4ポイント上昇の67.6%で、期間中の臨時便は那覇-久米島が2便、那覇-南大東線が4便、那覇-北大東線が8便を運航した。日本エアコミュニケーションでは提供座席数2.3%増の14万3431席、旅客数1.8%増の7万7447人、利用率0.3ポイント低下の54%だった。

ANA、夏ダイヤより米・アジア線を増強

シカゴ線ダブルデイリー、中部-上海再開へ

全日空(ANA)は2013年夏ダイヤから国際路線の増強を図るとして、デイリー運航を行っている成田-シカゴ線については6月29日からダブルデイリーにするほか、一時運航を休止している中部-上海(浦东)線を3月31日～10月26日の夏ダイヤ期間に運航を再開する。

この増便・再開と、さらにはアジア路線やニューヨーク線の増便、サンゼ線の開設などANAでは、北米線およびアジア線とのさらなる強化と、アジア・北米の接続需要をターゲットとして、路線展開を進めると

している。ダイヤ・運賃など詳細は次のとおり。

- ▼NH1012＝17時15分成田発→14時50分シカゴ着、使用機材:777-300ER
- ▼NH1011＝17時30分シカゴ発→20時25分+1成田着、使用機材:777-300ER(中部-浦東線)
- ▼NH1939＝10時30分名古屋発→12時15分上海着、使用機材:737-700
- ▼NH1940＝13時20分上海発→16時45分名古屋着、使用機材:737-700

ベトナム航空、8月5日から中部-ハノイ線週6便に増便へ

ベトナム航空は8月5日から、中部-ハノイ線を週6便に増便する。月曜便を追加する。同路線は12月28日から週5便に増便し、現在火・木・金・土・日曜便を運航している。機材はA321型機から変更ない。ベトナムの経済発展にともない、工業地帯である中部地区への渡航需要が拡大することを想定したもの。夏期スケジュールで中部-ハノイ線の運航スケジュール(予定)は以下のとおり。

《中部-ハノイ線》※8月5日から月曜便追加

- ▼VN347(火・木・金・土・日)＝中部11時15分発-ハノイ14時20分着

CAL、4月から富山-台北線週4便に増便

富山県の担当者によれば、チャイナエアライン(CAL)が4月15日から、富山-台北線を週4便に増便する計画だ。石井隆一富山県知事が台湾出張の際CAL本社に訪問し、孫洪祥CAL代表取締役社長にトップセールスを実施、増便の決定を取り付けたという。

CALでは現在、同路線に158席のB737-800型機を投入し、月・金曜の週2便で運航している。ここに木曜便と日曜便を追加する。4月16日には、「雪の大谷」で知られ、

ANA 年末年始 国際旅客 7%超増

全日空(ANA)がまとめた年末年始期間中(2012年12月21日～2013年1月6日)の旅客輸送実績によると、国際線の利用率は前年度比2ポイント低下した77.1%だった。利用率は若干低下したものの、旅客数ベースでは7.2%増加して好調。円高や日並びの良さが追い風となって、海外旅行の伸びを後押しした形だ。一方、国内線の利用率は3.9ポイント増加した66.6%を記録。座席供給量の伸びを上回る需要の成長がみられ、10.8%増えた213万6627人だった。

国際線の旅客数は7.2%増加した32万379人、提供座席数は10%増加した41万4940

台湾人観光客からも人気の高い立山黒部アルペンルートが全面開通するため、当初計画していた5月から1カ月前倒しして増便する。

富山-台北線は2012年4月に運航を開始、4-11月の平均搭乗率は約65%を記録している。

ガルーダとエティハド コードシェア開始

ガルーダ・インドネシア航空(GIA)は、エティハド航空(ETD)と、この冬期スケジュールからコードシェアを開始した。GIAは、ETDが運航する、欧州路線やアフリカ・中東路線など、計27路線をコードシェア便として販売。一方のETDは、GIAが運航するクアラ Lumpur 線、アブダビ線、主なインドネシア国内線を、コードシェア便として販売している。

今回のETDとのコードシェア開始により、GIAの路線網は、世界50カ国・80都市に拡大した。GIAの、ETD運航によるコードシェア便27路線は以下の通り。

- ▼欧州＝パリ、ロンドン、フランクフルト、ミラノ、ミュンヘン、マンチェスター、ダブリン、デュッセルドルフ、ジュネーブ、ブリュッセル、アテネ
- ▼北米＝ニューヨーク、トロント、シカゴ
- ▼ロシア＝ドモドボロ
- ▼アフリカ＝カイロ、ヨハネスブルグ、ナイロビ
- ▼中東＝ジェッダ、マスカット、ダンマム、リヤド、アンマン、イスタンブール、パーレーン、クウェート、ベイルート

AAL、日本路線アッパークラスのサービス刷新

アメリカン航空(AAL)は、日本路線を含む国際線ファーストクラスとビジネスクラスの、アメニティキットや機内食などのサービスを刷新し、提供を開始した。該当機材は、アジア・欧州・長距離の中南米路線に運航しているB777-200ER型機、B767-300ER型機、B757-200型機。さらに、1月31日にダラス-サンパウロ線に就航予定の新機材B777-300ER型機にも、この新サービスを導入する。

ファーストクラスでは、アメニティキットをヴェルカムカードとDermatologicaブランドのスキンケア製品が入ったものに変更した。さらに、新たなスリッパと追加の枕、および特製モザカクテルの提供も始めた。ちなみに、アメニティキットの袋は、タブレットPCケースとしても利用できる。

一方、ビジネスクラスのアメニティキットも、Alkhasaブランド化粧品を含むものに刷新。加えて、新デザインのスリッパを提供する。

機内食プログラムでは、ファースト・ビジネスクラスともに食器類とリネン類を刷新した。両クラス共通のポイントとして、一口オードルの提供も始めた。また、カートからトッピングを自由に選べるAAL特製サンデー両クラスで提供を開始した。

ファーストクラスの機内食では、食事と飲み物のラウンジアアップを拡充。さらに、AALによれば航空会社としては初めて、好みにあわせてカスタマイズ可能なパスタ料理の提供も始めた。